



ソフトウェアライセンス最適化 (SLO) アウトソーシングの実効性

2017年6月9日

ウチダスペクトラム株式会社
プロフェッショナルサービスオフィス

ウチダスペクトラム株式会社

■ 設 立

1995年 3月

■ 資本金

資本金：1億円

■ 代表者

代表取締役社長 實本 雅一

■ 事業内容

- ソフトウェアライセンス販売、及び契約/調達/導入/コンサルティング
- ソフトウェア資産管理 (SAM)サービス
- IT資産統合管理サービス
- テクノロジーコンサルティングサービス (IT基盤の計画/設計/導入/運用支援サービス)
- BPOサービス

■ 本 社

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目16番14号
連絡先 TEL: 03-5543-6800 FAX: 03-5543-6810

■ 西日本ヘッドオフィス

〒530-0001大阪市北区梅田2丁目4番13号
連絡先 TEL: 06-4797-7621 FAX: 06-6347-7601

■ 名古屋オフィス

〒450-0002愛知県名古屋市中村区名駅4-25-17
連絡先 TEL: 052-562-1777 FAX: 052-588-9812

■ 事業株主

株式会社内田洋行



<http://www.uchida.co.jp/>

代表者 代表取締役社長 大久保昇

本 社 東京都中央区新川2-4-7

設 立 1941年

Insight Enterprises, Inc.



<http://www.insight.com/>

代表者 Ken Lamneck Chief Executive Officer

本 社 米国アリゾナ州テンピ市

設 立 1988年

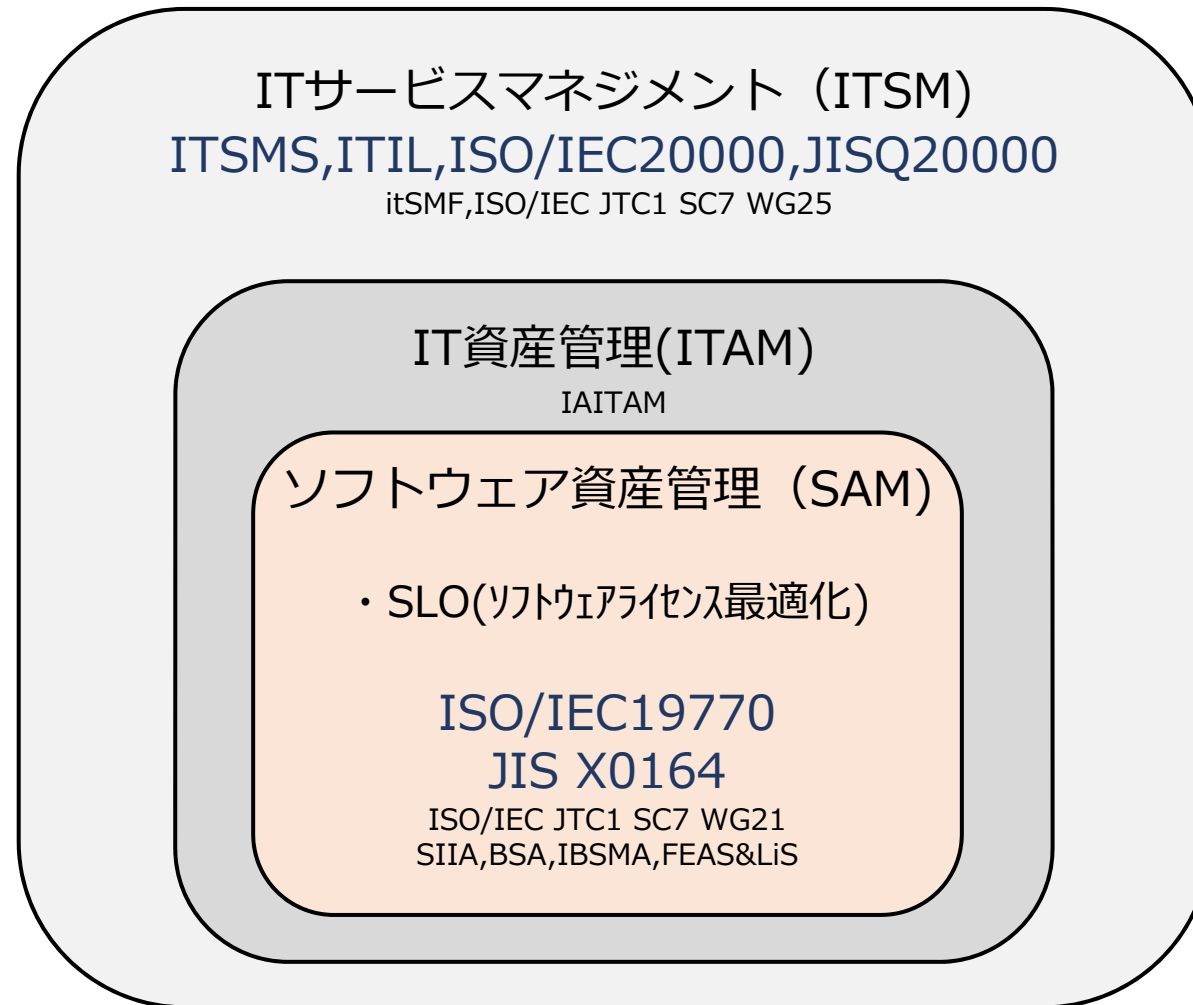
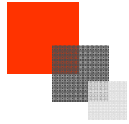
日本マイクロソフト株式会社



<http://www.microsoft.com/japan/>

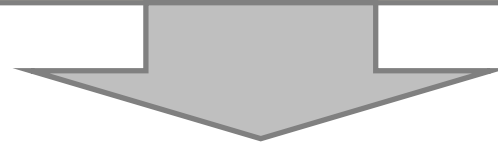
設 立 1986年2月

- パートナーとしてPartner of the Year(2014)など
アワードの受賞歴多数



IT環境の現状

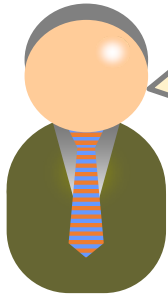
- ◆ サーバ仮想化の拡大
- ◆ 仮想環境のサイロ化
 - WebブラウザやSSH、VMware vSphereクライアントのような仮想化ツール側で用意されているインターフェースなど、運用管理者によってアクセス方法が異なっていて、誰がどんな設定・処理を行ったのか一元的に管理しづらい状況
 - 業務システムごとにITベンダーへITの開発・保守を委託することが多く、ITベンダーごとに基本設計で選定された複数のIT基盤（サーバスペック、OS、ミドルウェア、クラスタ設定など）が混在



IT資産管理の課題

- ◆ 構成変更への的確な対応
 - 物理サーバーと仮想サーバーの関係性、仮想マシンの移動、仮想マシン上に導入されているOS、ミドルウェア、アプリケーションなどの構成情報の管理
 - 仮想サーバーへのシステムリソースの「共有」と「動的な配分」の情報の管理
 - 仮想環境ではシステムごとの個別の管理から全体統一管理が必要
- ◆ データセンター環境でのライセンス管理
 - フルキャパシティ、サブキャパシティのように、ライセンスタイプごと、製品ごとのライセンスの的確な理解
 - ライセンスタイプや製品ごとに異なるライセンス消費計算に必要なメトリクスの把握と適正な消費計算

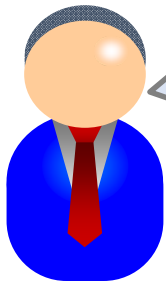
CIOの悩み



◆ IT資産管理に必要な人材の育成・確保

- 複雑性が増していくデータセンター環境のIT資産をコンプライアンス、コストを考慮した的確な管理を自社組織で継続するのにスキル・コスト面で限界を感じている。
- IT資産管理という専門性の高いスキルの必要な人材をどうやって育成し、継続的に確保する必要があるのか？
- IT資産管理のコアとなる人材像は？

IT管理者の悩み



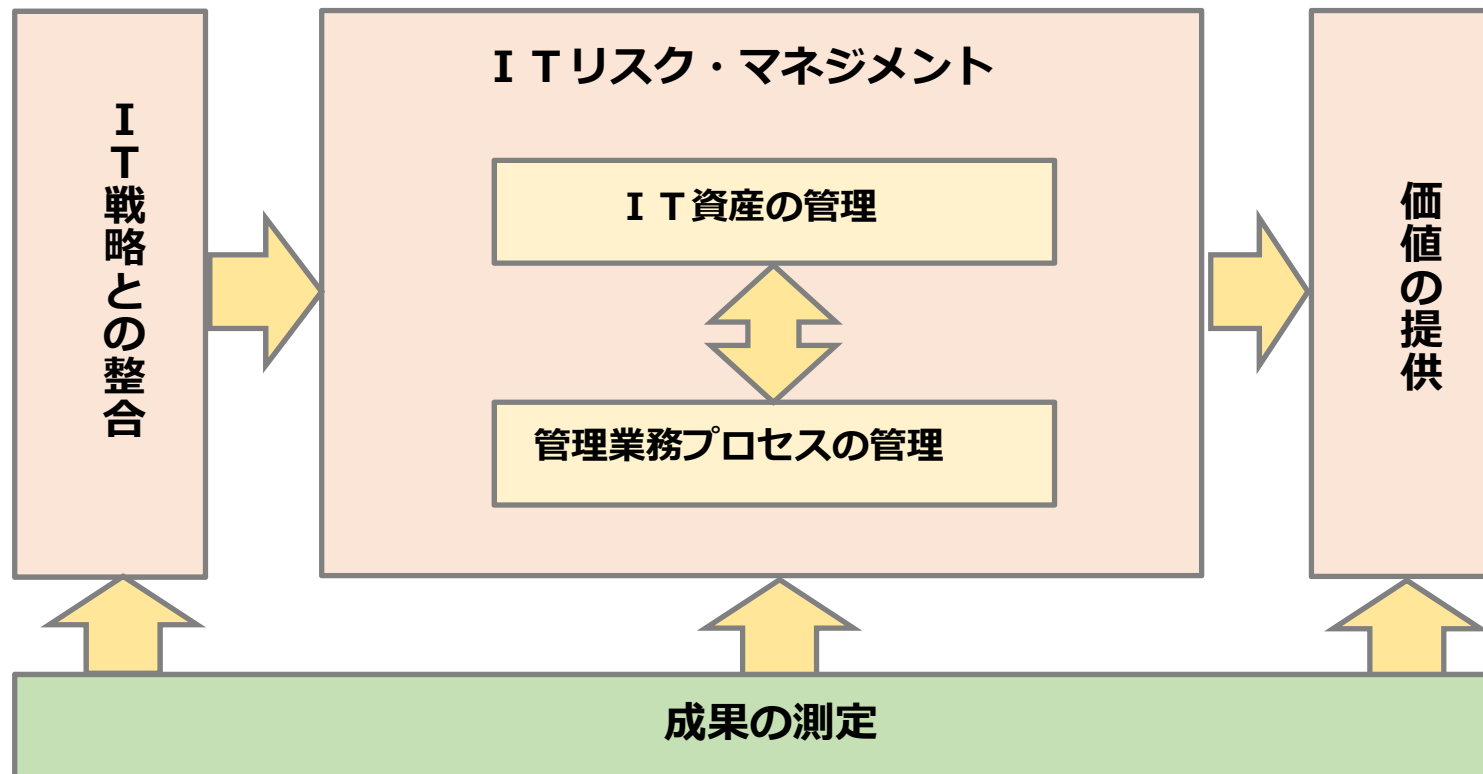
◆ IT資産管理に必要なスキル

- ITテクノロジー、IT環境が変わったら、今のスキルが陳腐化してしまう
- ITテクノロジー、IT環境が変わっても普遍的なスキルとはどんなことだろう？
- どうやってIT資産管理のスキルを取得すればよいのだろうか？
- どこまでのスキルを保持すべきなのか？
- ITスキルとライセンス知識の両立？無理……

そもそもIT資産管理の目標は何だったか？

◆ IT資産管理の目的は組織へ価値を提供すること

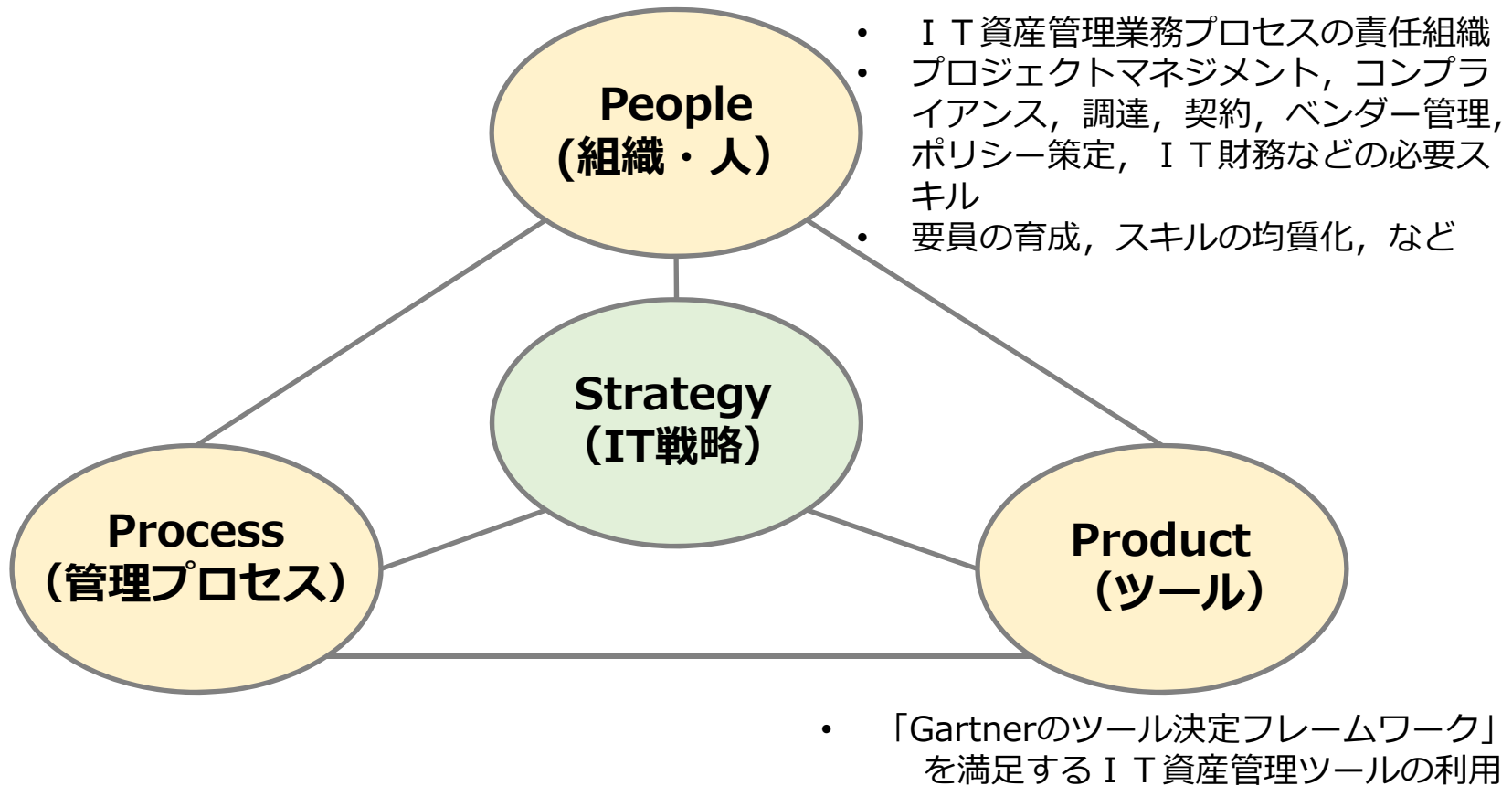
- コンプライアンス
- ビジネスに有効・有用なITの提供
- IT資産のライフサイクル管理コストの最適化
- ITSM等の他マネジメントシステムとの全体最適化





IT資産管理が有効に機能する条件の整理

IT資産管理が組織に有効に機能するには、組織のIT戦略に基づく「People(組織・人)」「Process(管理プロセス)」「Product(ツール)」が有機的に結合する必要があります。

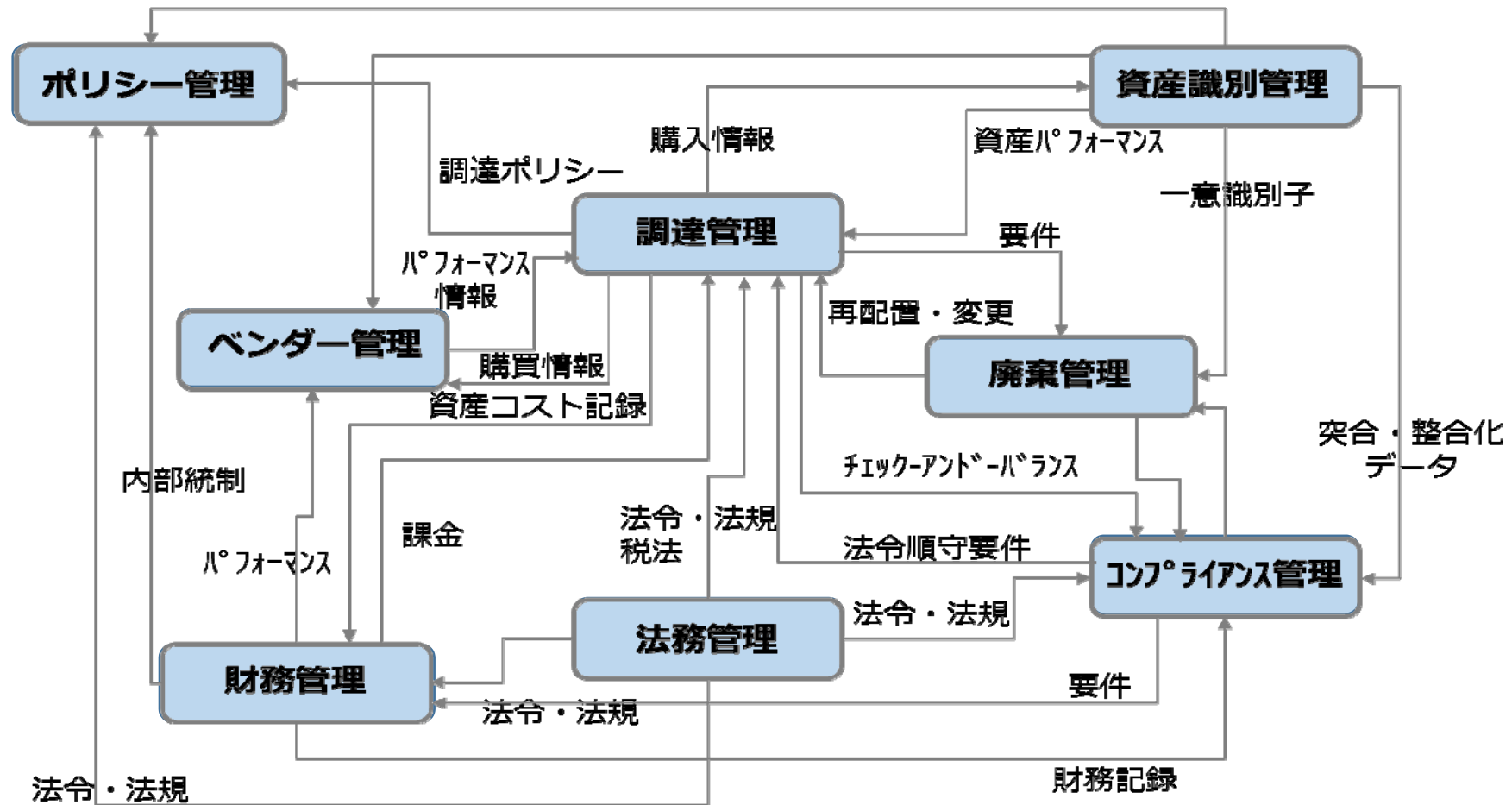


【参考】Gartnerのツール決定フレームワーク

機能分類	機能要件	補足説明
1. 検出	ネットワークに接続している物理デバイスおよび仮想デバイスを識別する	<ul style="list-style-type: none"> 多様なプラットフォーム (Windows, Linux, UNIX, MAC) や仮想環境 (VMWare, Hyper-V, Citrixなど) に渡って検出可能SCCMなどの既存の検出/インベントリツールからデータをインポート可能
2. インベントリ収集	データを収集かつ分析し, ハードウェアおよびソフトウェア資産を識別する	
3. 名寄せ	重複または矛盾する情報を取り除き, 標準の命名規則を使用する	<ul style="list-style-type: none"> グローバル規模で使用される多様なソフトウェアに対応が可能
4. 突合/整合化	有効なライセンス状態を確立する	<ul style="list-style-type: none"> 発注処理では, ライセンス・エンタイトルメントに関する正確なデータを効率的に登録が可能 名寄せされたインベントリと自動的に突合が可能
5. 最適化	ライセンス・エンタイトルメントと使用状況のデータを活用してソフトウェア支出を削減する	<ul style="list-style-type: none"> 様々なベンダー, ライセンス・モデル, などを考慮したライセンス最適化案の Recommend 変更計画をシミュレーションし, B I A (業務影響分析)が可能
6. 共有	一元的な資産管理リポジトリやレポートを介して情報を共有する	<ul style="list-style-type: none"> IT資産管理の広い範囲が自動化され, 各業務に応じた必要な情報の処理が可能

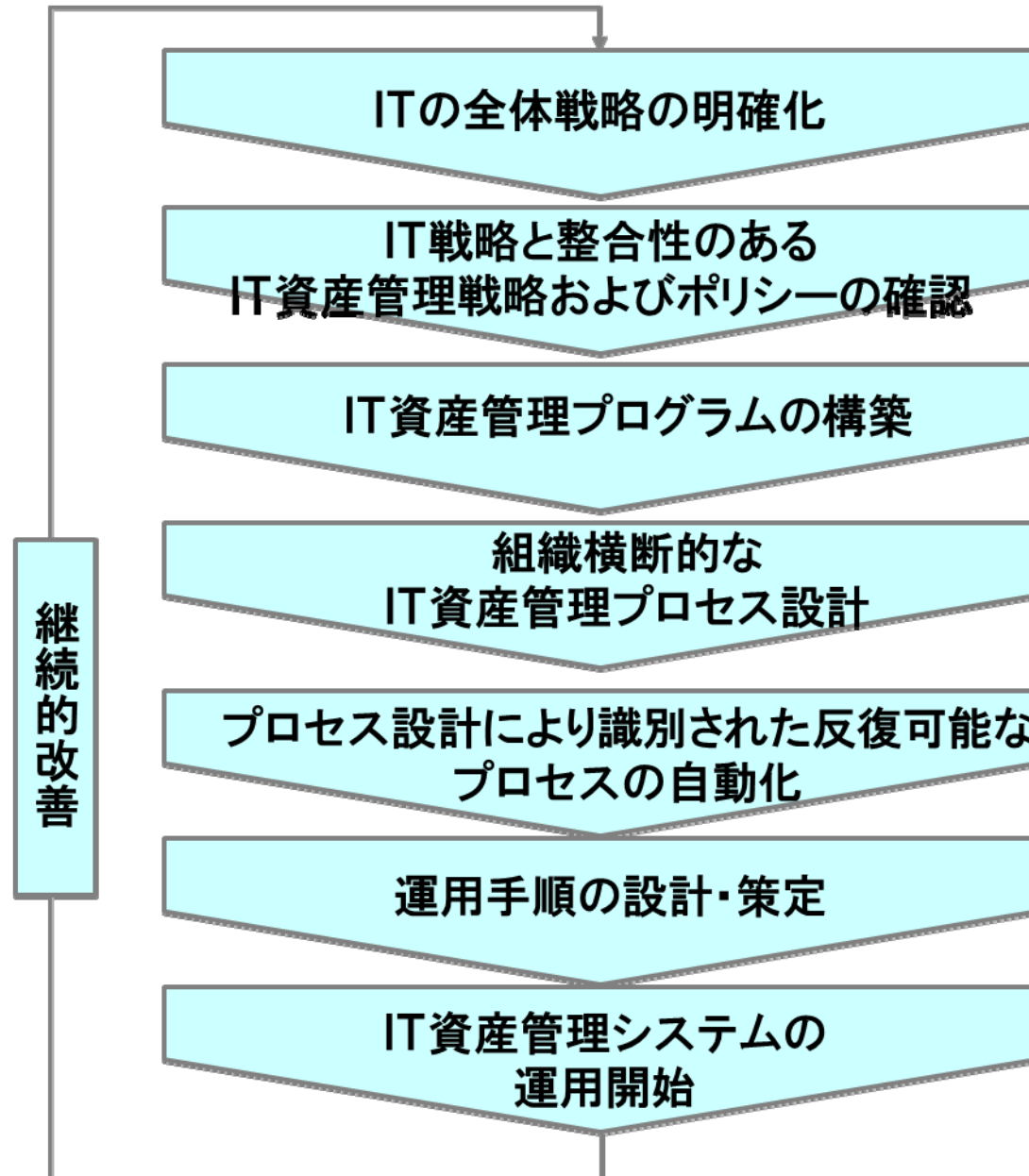
IT資産管理における必要な業務領域と関係性

- IT資産管理業務は複数の管理プロセスが相互関連して実現される。
- 各業務主管である組織内外のステークホルダーは多岐に渡る。





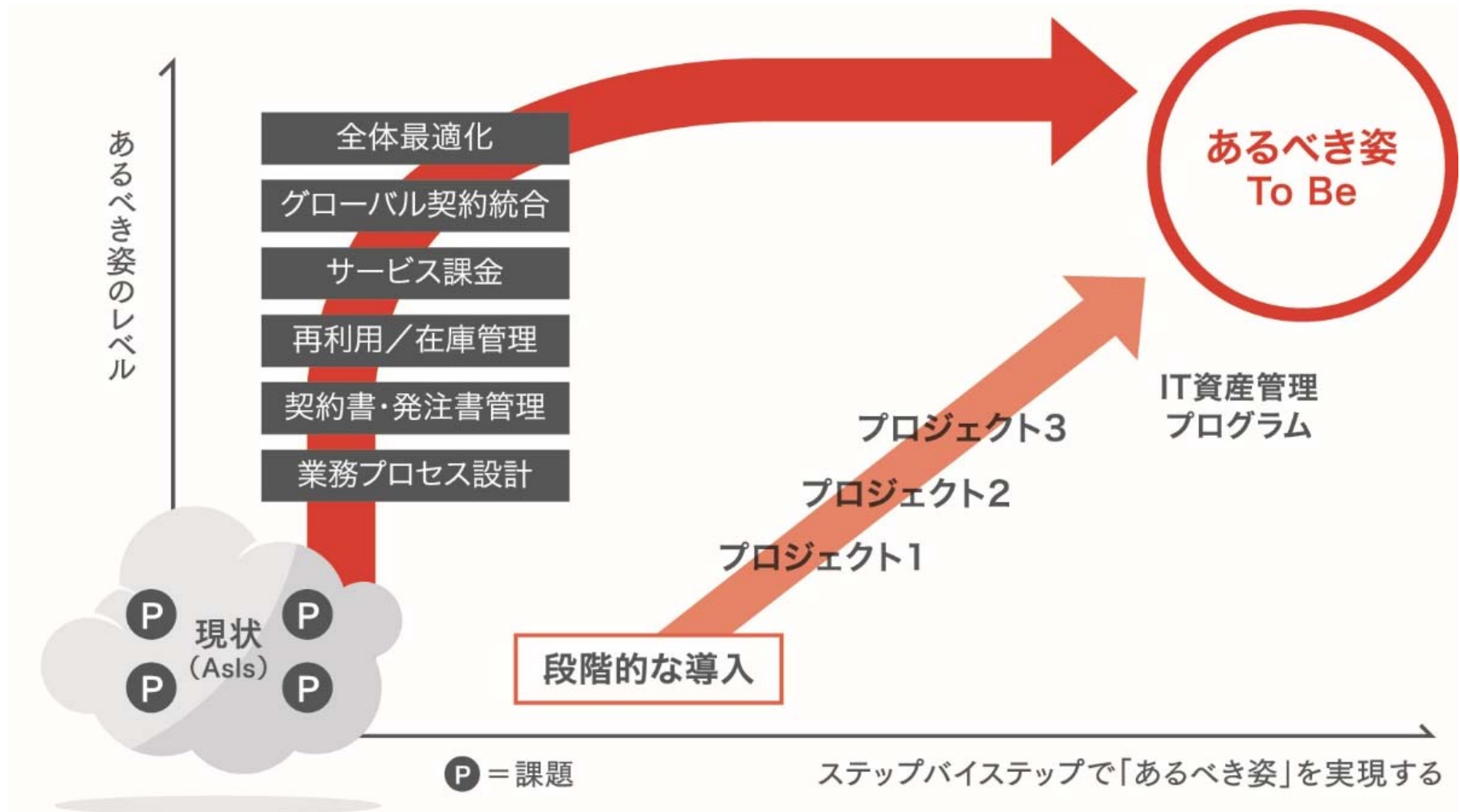
IT資産管理の実装ステップ





IT資産管理を導入するには

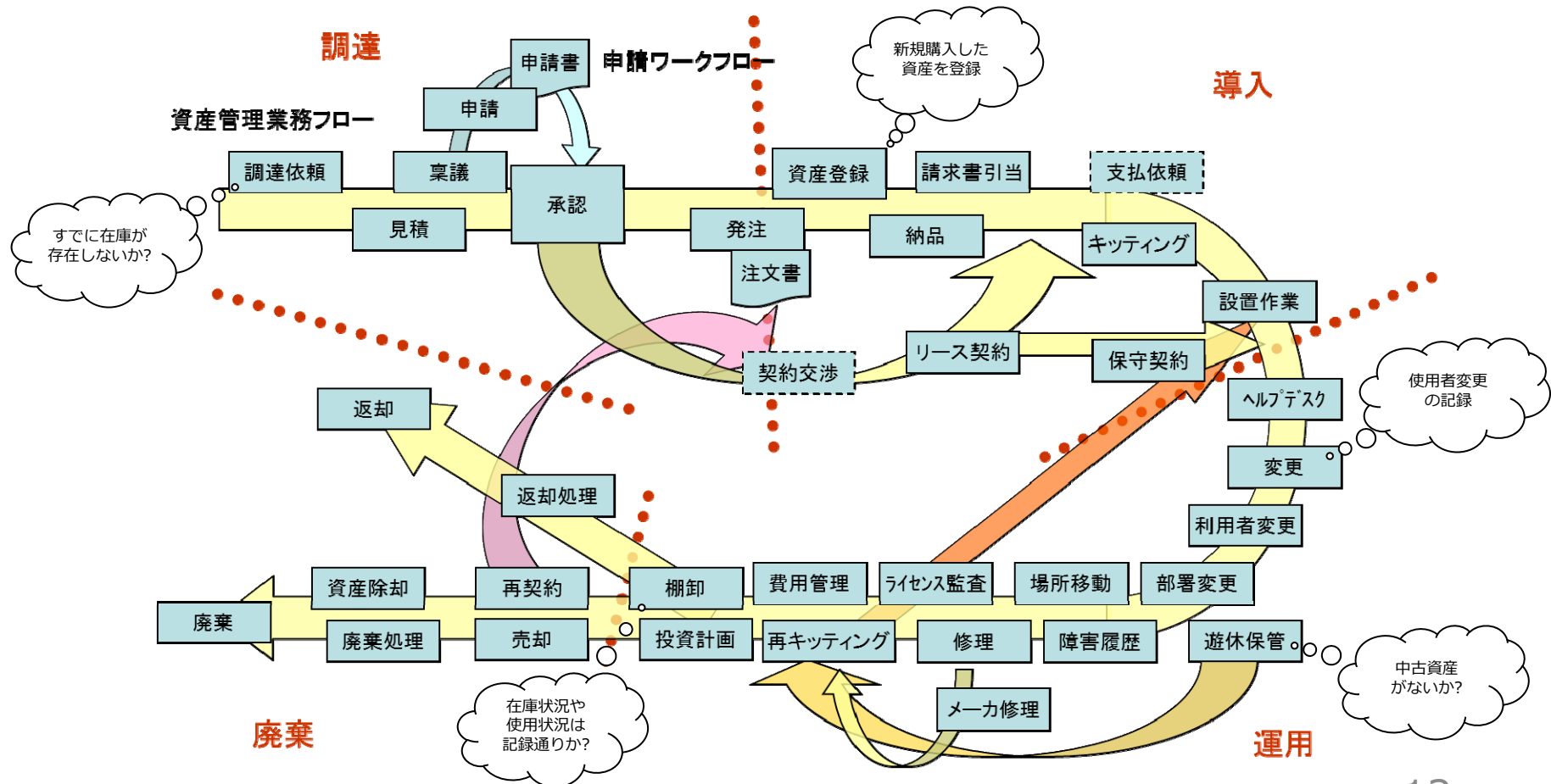
IT資産管理は戦略・目標に則ったIT戦略及びITマネジメント戦略とのロードマップと整合していることが必要です。その上で、その業務プロセスが組織横断的に実施され、**導入計画と段階的な実施**が求められます。



標準化すべきIT資産管理業務プロセスとは

IT資産管理の構築、標準化は組織横断的ステークホルダーが関与するBPRです。

IT資産のライフサイクルの様々なシーンで、現在の資産状況、在庫状況、発注後の管理が求められ、その度にIT資産管理のための記録は参照・更新されます。確認する都度、資料を作成したり、別々の管理表を参照するのではなく、統一された管理システムにて一元管理することで、効率化を図ることが必要です。





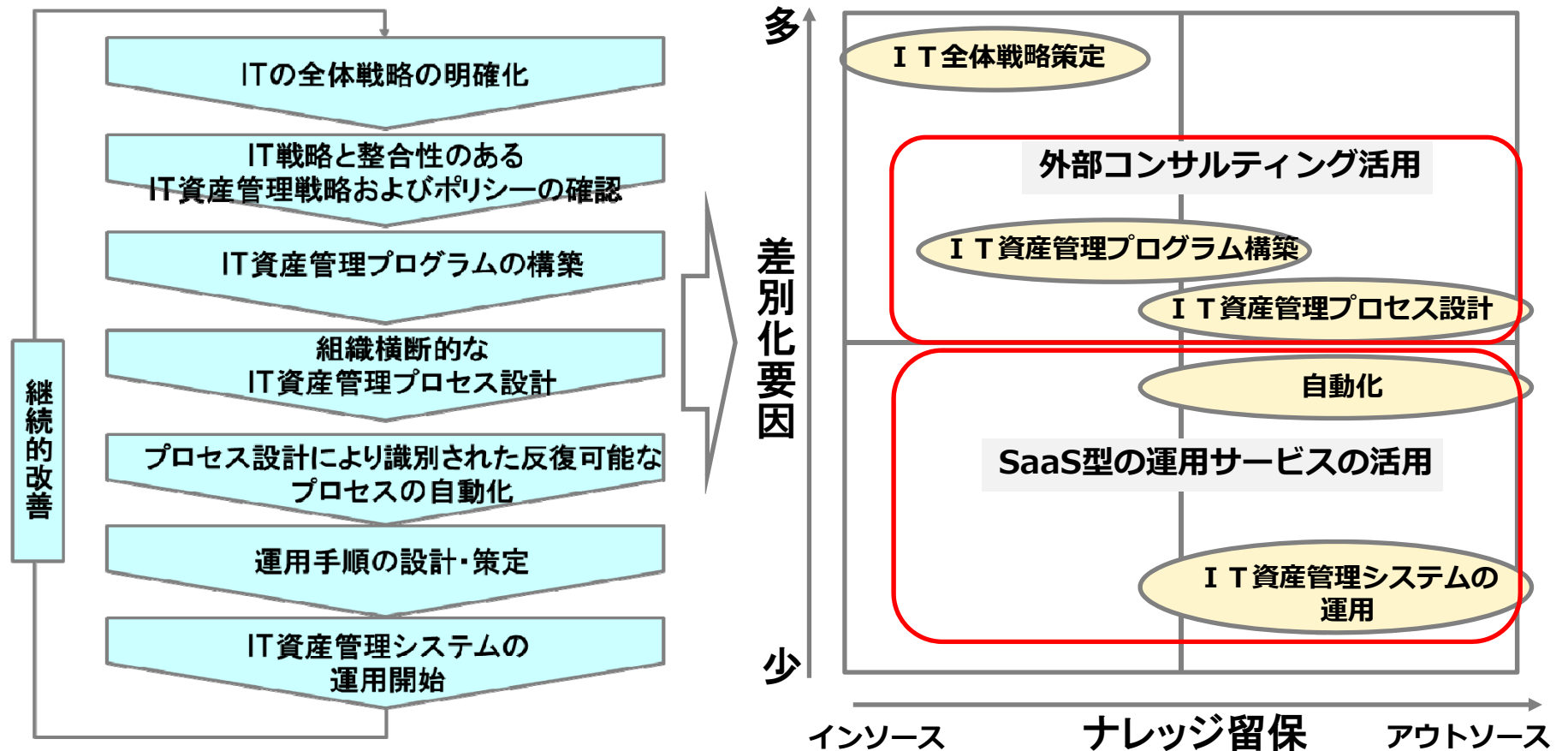
【例】定義すべきIT資産管理プロセス粒度

標準化 規程作成 インベントリツール導入・最適化 ベースライン構築(アセスメント) ベースライン構築(正台帳作成) 契約 (SLA) の締結 運用ドキュメントの合意 所有権の移転 (資産のサービス化) 端末要求 (標準) 端末要求 (非標準) ソフトウェア要求 (標準) ソフトウェア要求 (非標準) 在庫照会 端末割当て ソフトウェア割当て 納期照会 発注 (購買・リース等契約管理) 受領 (RMA) 支払い キittingリソース管理 ディスクイメージ管理 キitting 出荷 導入確認 インベントリ収集	インベントリ監視(アラート) ソフトウェア辞書更新 フィルタリングルール更新 契約管理 契約更新・解約 ベースライン管理 月次レポート 定期棚卸 故障 端末移設、使用者変更 返却 返却品の受領 遊休保管 (ハードウェア) ライセンス証書管理 各種ルールの変更 顧客環境における互換性テスト ソフトウェア配布・ハーベスト 定期人事異動 (組織再編) ライセンス監査報告書 ライセンス監査対応 処分申請 データ消去・ライセンスハーベスト 廃棄及びリース品の返却 売却 インシデント管理	ディザスタリカバリー 調達管理 資産識別 コンプライアンス管理 コミュニケーション管理 廃棄管理 文書管理 教育管理 財務管理 法務管理 ポリシー管理 プログラム・プロジェクト管理 ベンダー管理
--	--	---

IT資産管理をすべて自社で行う必要があるのか？

- ・ I T 戦略策定～ I T 資産管理システム運用に関するノウハウ・ナレッジを社内留保すべきか？
- ・ 他社との差別化要因が大きいかどうか？

上記を基準にソーシングを検討します。



<SLOアウトソーシングによる利点>

- 運用自動化の為に必須なフレームワーク（製品SKUマスタ、PURマスタ）の保有可能。
- プロセス構築により正確な情報の共有が継続的に可能。
- インベントリデータ収集を定期的を実施し、使用増減を自動測定。

➡運用コストの軽減と正確性の担保

- ITAM運用上不可欠な常時アップデートするナレッジ（ライセンスポリシー、利用規約の変遷情報など）やノウハウ（実際の使用状況に応じたライセンス再割り当て）の活用。

➡リスクシェアと結果コミットの担保をソーシングパートナーへ

外部リソースの有効活用が成功のポイント

ソーシングベンダーの要件

➤ ITAM標準化モデル、テンプレートを保有している

IAITAM IBPL※

ITAM 標準プロセスモデル

➤ ITAM導入支援や運用支援の実績が豊富である

ITAM現状アセスメント

ITAM導入コンサルティング

ITAM BPOのRFP作成支援

➤ ITAMに精通したコンサルタントがいる

IAITAM CHAMP CSAM保有

IAITAM 認定講師資格

➤ BPOサービスを提供する体制、サービスインフラの保有

マネージドサービスチーム
SLOスキルを持つメンバー

クラウド型支援ツール

※IAITAM(国際IT資産管理者協会)

• 2002年に正式に法人化



• グローバル組織 数千社を会員とするIT資産管理者を会員とする団体

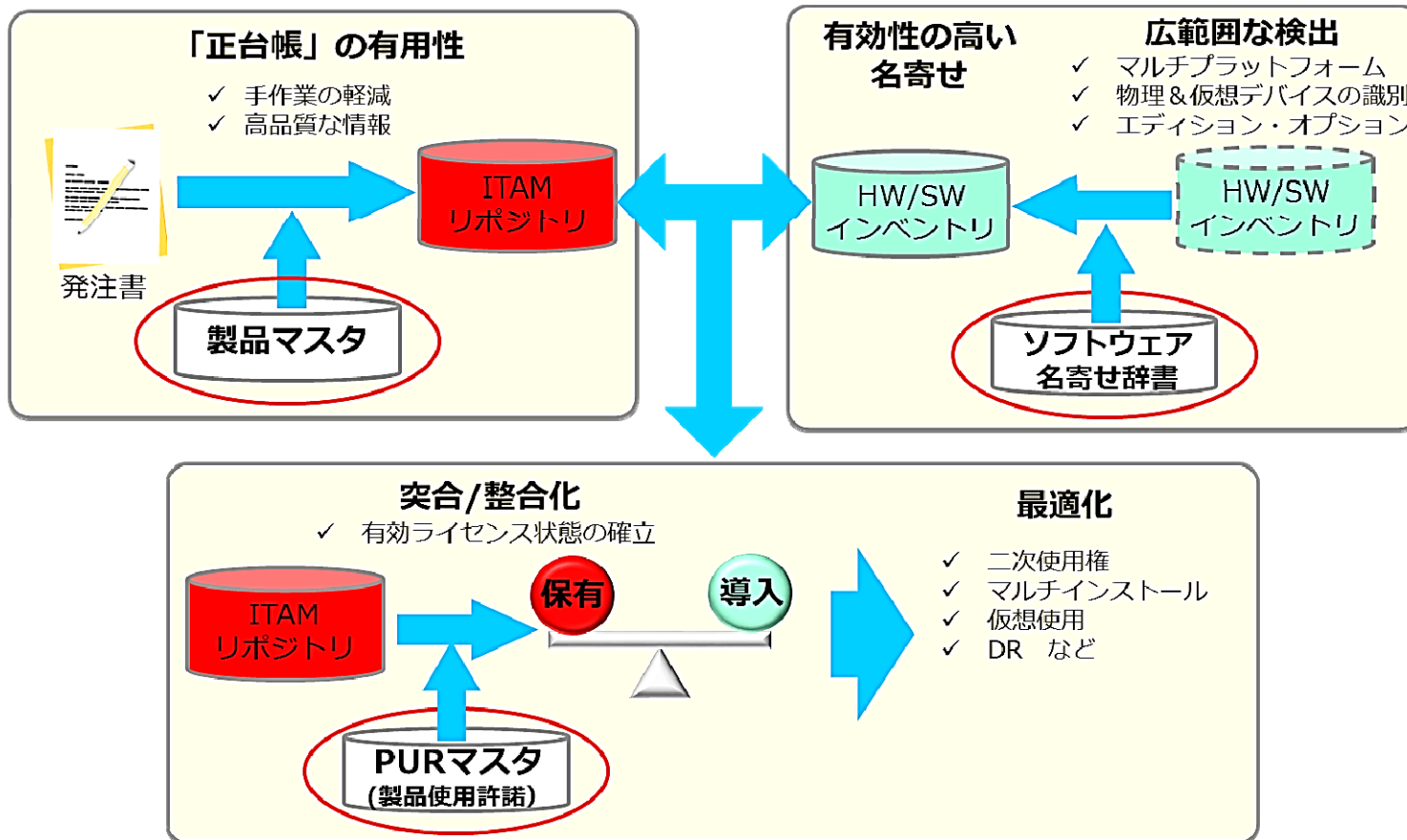
• IT資産管理のベストプラクティスとして参照される
IBPL (IAITAM Best Practice Library) を編纂、出版している



運用自動化に必要なフレームワークとは

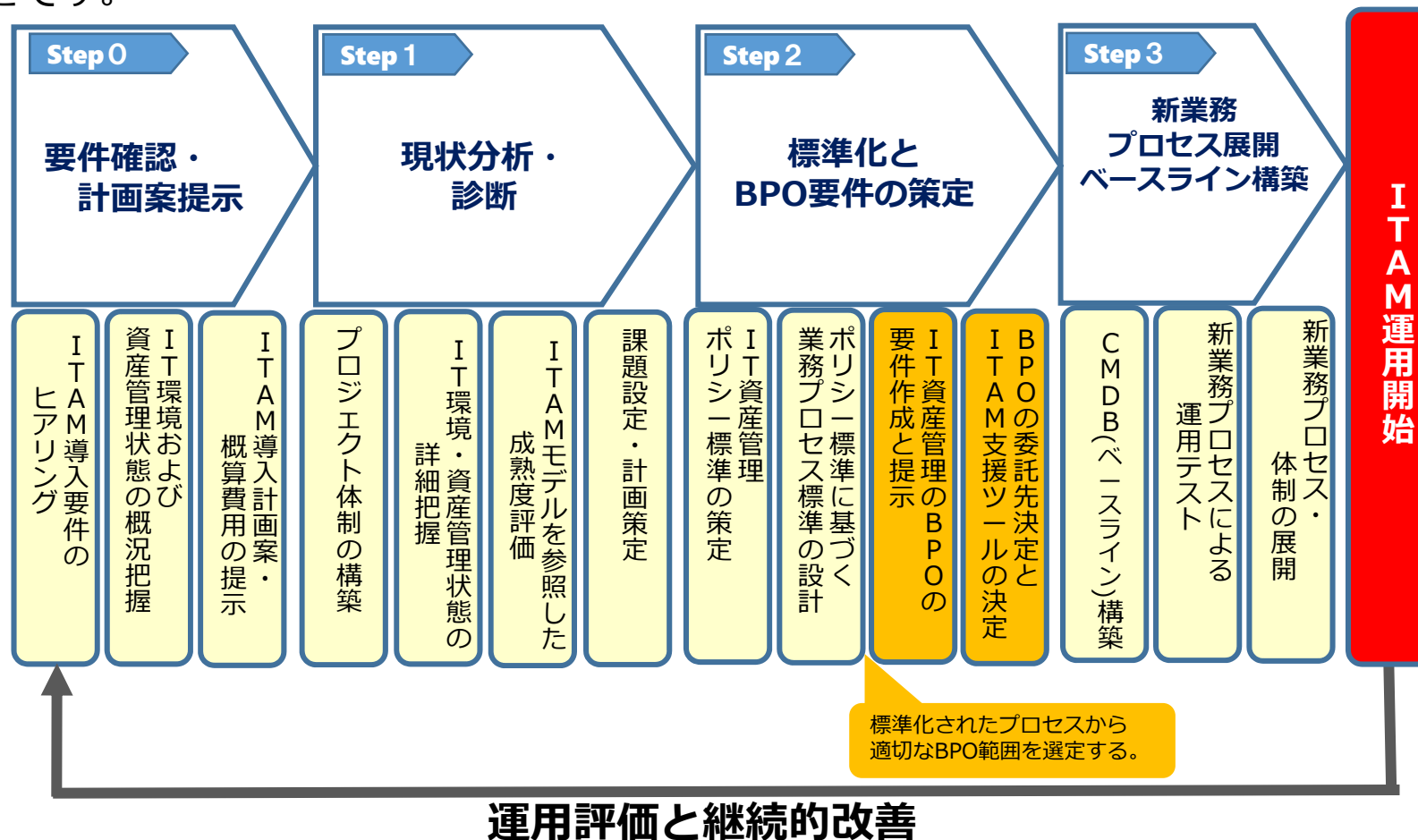
自動化フレームワーク（名寄せ辞書、SKUマスタ、利用規約マスタ）の活用と運用

1. 検出 2. インベントリ収集 3. 名寄せ 4. 突合/整合化 5. 最適化 6. 共有

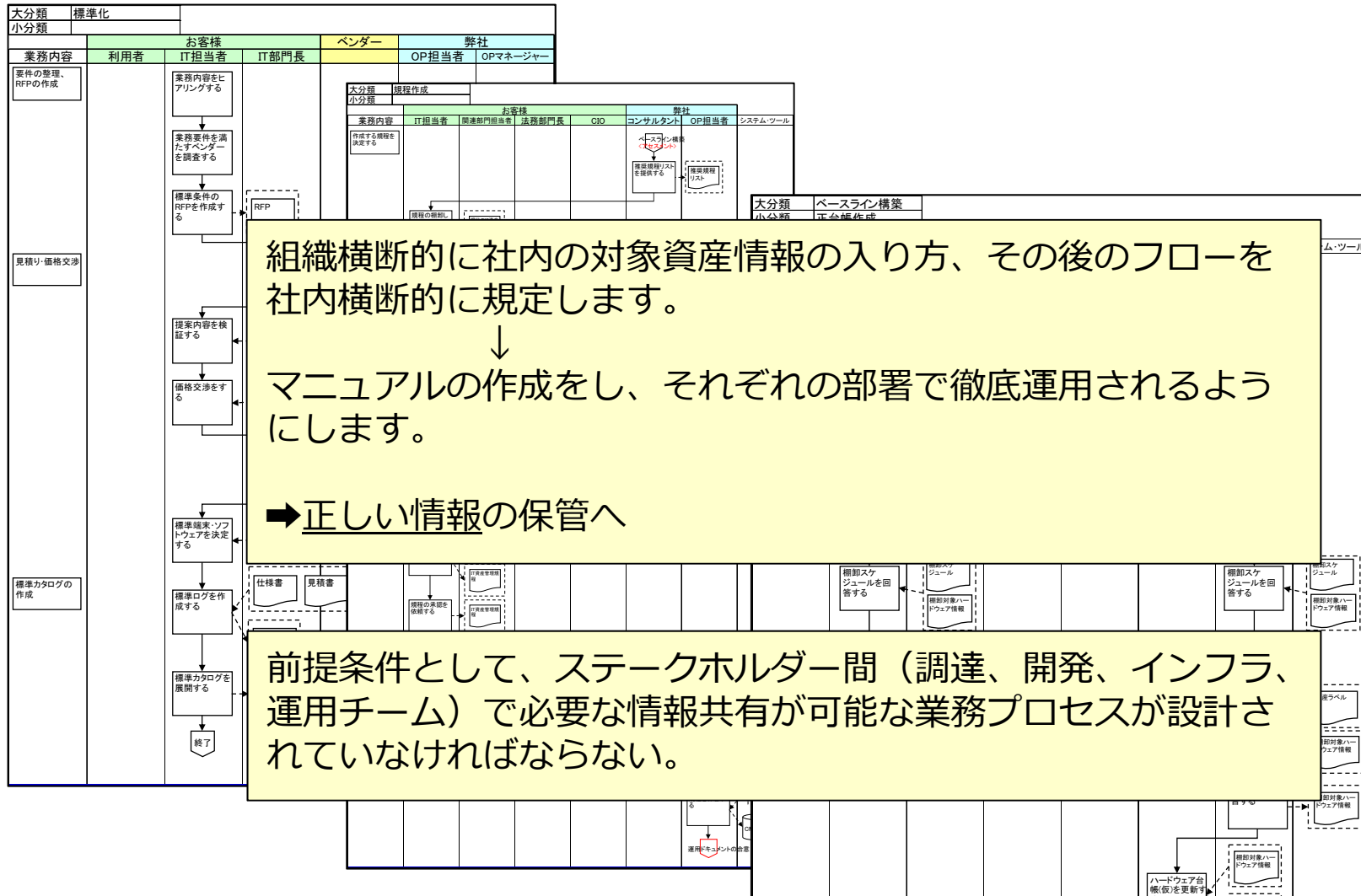


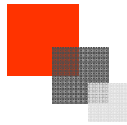
IT資産管理導入プロセスとBPO要件策定ステップ

IT資産管理(ITAM)BPRは一般的には以下のようなプロセスを進めます。
自社におけるITAMのポリシー、業務プロセスを標準化した上で、BPO(Business Process Outsourcing)の具体的な範囲、要件策定、ソーシングベンダーの選定を行うべきです。



■ 「業務プロセスフロー」 (サンプルイメージ)





■ 「プロセス定義書」 (サンプルイメージ)

<p>標準化</p> <p>プロセス定義書</p> <p>1.1. 目的、最終目標、達成目標 本プロセスでは、お客様の役職・役割別にハードウェア、ソフトウェア、環境設定という IT 資産の標準仕様を定める。 標準仕様を定めることでコスト削減と運用レベルの向上を実現する。</p> <p>1.2. 適用範囲 ・端末 ・ソフトウェア ・環境設定 ※環境設定の範囲には、BIOS の設定といったことも含まれる。</p> <p>1.3. 事業に対する価値 ・標準と非標準が明確に区分され、</p>	<p>プロセス定義書</p> <p>ベースライン構築</p> <p>1.1. 目的、最終目標、達成目標 本プロセスでは、お客様社内に散在するハードウェアに関する管理資料、ソフトウェアに関する管理資料を統合・整理し、実地棚卸結果やインベントリ情報と突き合わせ確認することで、正台帳(ハードウェア台帳、ソフトウェア契約台帳、ライセンス台帳)を ITAM マネージドサービスで一元管理し、コンプライアンスを維持する。</p> <p>1.2. 適用範囲 ・サービスプロバイダの ITAM マネージドサービスを利用する。 ・お客様が所有もしくは利用しているソフトウェアの台帳を ITAM マネージドサービスで一元管理する。 ・データセンターの棚卸は対象外とする。 ・成果物として、ある一時点の正台帳(ハードウェア台帳、関連部材台帳)を作成する。 ・ITAM マネージドサービスを導入する際の IT 資産管理プロセスに関するレクチャリング。 ・ITAM マネージドサービスを導入する際の IT 資産管理プロセス、インベントリツール導入・最</p>	<p>プロセス定義書</p> <p>ライセンス証書管理</p> <p>1.1. 目的、最終目標、達成目標 本プロセスでは、ライセンス証書、使用許諾契約、ソフトウェア原本等を確定版メディアライブラリ (DML) として保管・管理する。適正な管理を行うことで、ライセンス監査への対応を可能とし、セキュリティリスクを低減する。また、必要がある場合には迅速に利用可能とすることが目的である。</p> <p>1.2. 適用範囲 ・ライセンス証書 ・使用許諾契約 (EULA) ・ソフトウェア原本</p> <p>1.3. 事業に対する価値 ・ライセンス監査に対してライセンスの所有状況を証明可能とする。 ・必要な時にすぐ取り出すことができる。 ・ライセンス証書、使用許諾契約、ソフトウェア原本等の紛失を防止する。</p> <p>1.4. 方針、原則、基本概念 ・セキュリティが確保された場所 (サーバー含む) で管理する。 ・お客様ごとに区画を分けて管理し、混在させない。 ・取扱い方針についてキックオフ担当者に教育を徹底する。</p> <p>1.5. プロセスの活動、手法、技法</p>
--	---	--

- 管理対象ライセンスに関する License Agreement、保守契約、購入情報を棚卸しする。
- 対象インスタンスが稼働するサーバー環境の情報を棚卸しする。
- サーバー、クライアントのインベントリ収集システムを構築する。

契約、購入情報、発注情報、
ライセンス割り当て処理、ラ
イセンス生成

→**正台帳の作成**

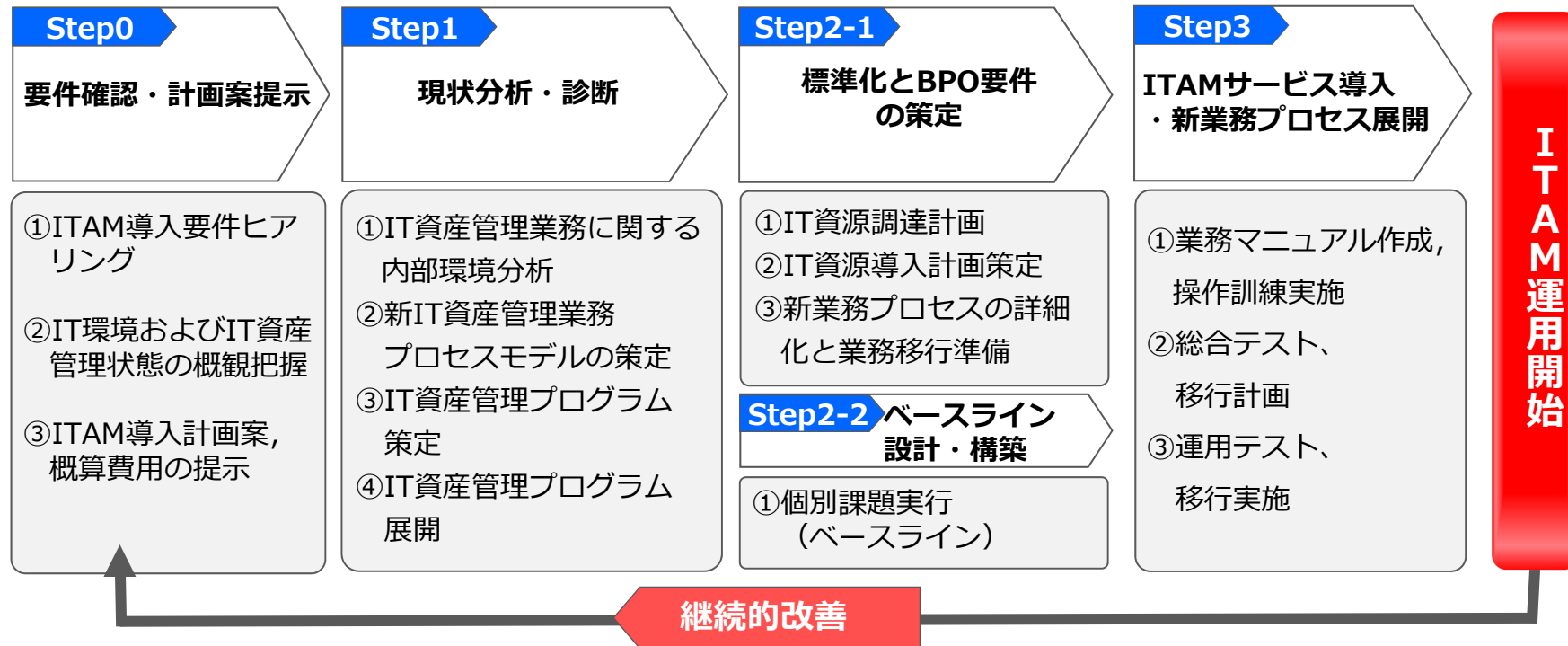
突
合

サーバー、クライアントのイン
ベントリ情報
ーインスタンス、それに割り当てた
CPUコア数、消費するライセンス数
等

→**実インストール情報を取得**

ベースラインの構築

ITAM統合ライフサイクルサービスご紹介



ITAM統合ライフサイクルサービス

<p>ITAMアセスメントサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスク・アセスメント ・ IT資産管理プログラムアセスメント ・ IT資産管理プロセスアセスメント 	<p>ITAMコンサルテーションサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT資産管理導入支援 ・ IT資産管理プログラム設計 ・ IT資産プロセス設計 ・ ライセンス最適化支援 ・ グローバル契約統合 ・ ライセンス最適化 <p style="text-align: center;">ITAMベースラインサービス</p>	<p>ITAMマネージドサービス</p> <p>受託範囲(契約)に基づく運用支援</p> <p>Powered by Flexera FNMP</p> <p> FlexNet Manager Platform</p>
<p>ITAM教育サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT資産管理導入教育 ・ IAITAM認定資格教育 ・ ライセンス最適化教育 		<p>INTERNATIONAL ASSOCIATION OF INFORMATION TECHNOLOGY ASSET MANAGERS 国際IT資産管理者協会</p>

ITAM統合ライフサイクルサービスご紹介

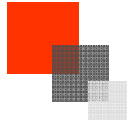
ITAM教育サービス



■ CSAM/CHAMPコース概要

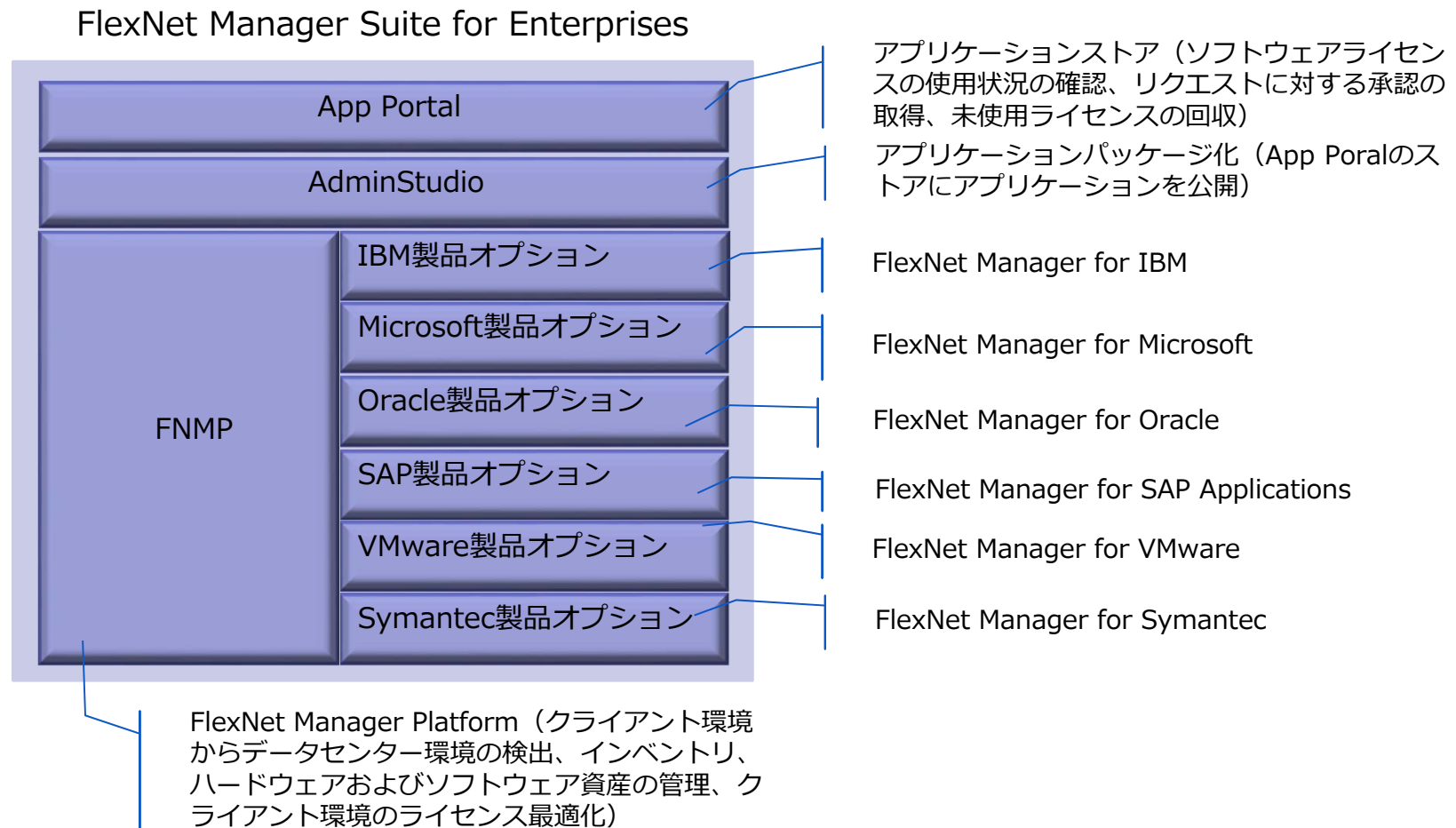


認定ソフトウェア資産管理者コース (Certified Software Asset Management Professional - CSAM)	認定ハードウェア資産管理者講習 (Certified Hardware Asset Management Professional - CHAMP)
<p>2日間 [コース概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェアライセンスおよび契約交渉 2. ソフトウェア契約管理テクニック 3. ソフトウェアライセンス コンプライアンス管理 4. IT 資産管理レポジトリの選考および実装 5. IT 構成ディスカバリ・インベントリ ツールの選考および実装 6. 戦略的ITAM ポリシーおよびBuy-in 獲得の計画策定 7. ITAM プロジェクト管理テクニック 8. 効果的IT タイムマネジメントによるライフサイクル コストの削減 9. 適正な変更管理テクニック 10. ソフトウェアコンプライアンスおよびライセンスに関する法規 	<p>2日間 [コース概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション、教育管理 2. ポリシー管理の主要プロセス 3. ポリシー策定の例 4. ハードウェア資産管理プログラムの設定 5. 必要となる標準の例 6. 変更の計画立案と実装 7. 調達から受領（引受） 8. ハードウェアのためのベンダー管理 9. 資産のライフサイクル管理 10. インベントリ管理から廃棄



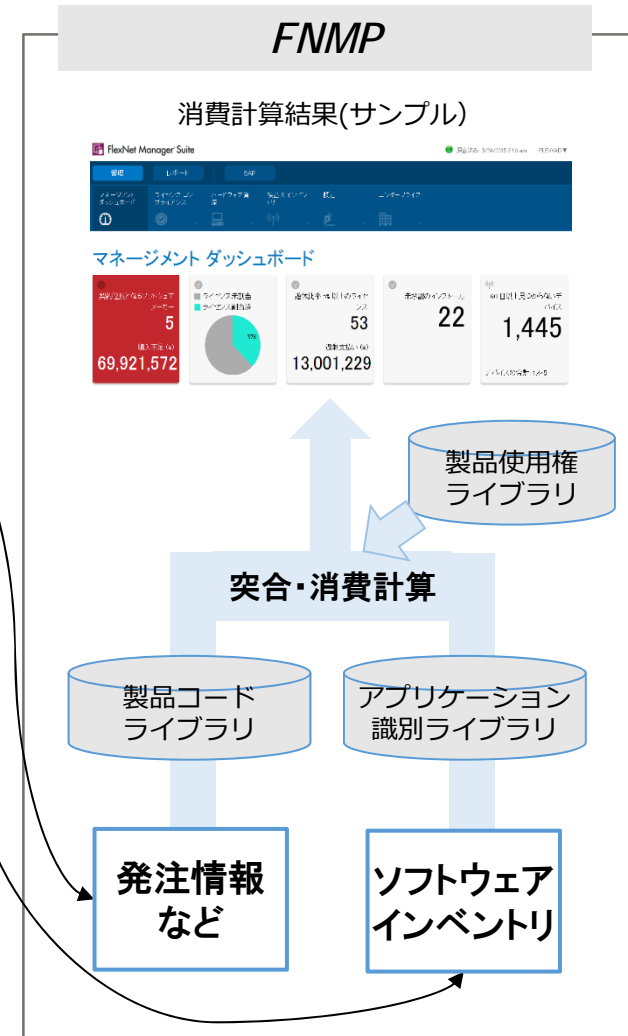
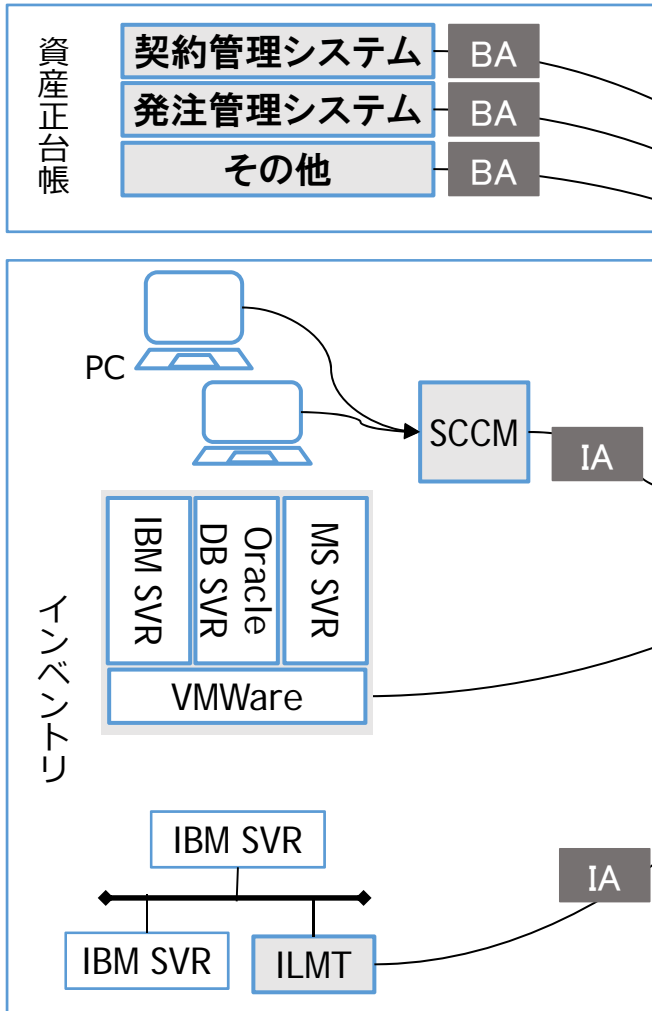
Flexera社製品構成紹介

弊社のマネージドサービスはFlexera社のFlex Net Manager Platform を活用し、ご提供致します。



【ご参考】システム構成イメージ例

- BA ビジネスアダプタ
- IA インベントリアダプタ





Next Value for Next Business

ご視聴ありがとうございました

* 今回のセミナーやPOC実施等に関するお問合せはこちらへ
contact@spectrum.co.jp